

【解説】 デーン・ウィギントンの運営する GeoengineeringWatch.org は、Geoengineering（気象操作）関係の、現在おそらく最も充実したサイトではないかと思われる。

この悲しいが面白い話を訳したのは、これがいろんなことを教えるからである。まず気象が操作されているように、気象科学が操作されているということ。「銀河連盟：その全貌」（5/23）で高次元人が道破している「イルミナティのコントロール下にある主流科学」の、これほど分かりやすい例はない。「主流科学誌に発表されない限り」どんな証拠も証拠にならないというのは、ID理論に対するダーウィニストの難癖と同じだが、この気象科学者たちの例はもっと徹底していて、よい“科学”勉強をさせてくれるではないか。

もっとも彼らの立場にあえて立つならば、彼らは白いものを黒いと言わなければ、職を失い、場合によっては暗殺の対象になるのである。しかし彼らの安全と引き換えに、彼らに騙された民衆が深刻な危険にさらされる。科学者よ、勇気をもって立ち上がれ！

## ケムトレイル：気象“科学者”の傲慢と嘘

(Climate “Scientists”, Arrogance, and Lies)

Dane Wigington

June 22, 2013



政府や大学に属する著名な“科学者”が、気象変化のような深刻な問題について、再三再四、嘘をついている場面に遭遇すると、多くの人々がいわゆる“専門家”への信頼をすっかり失ってしまったのも当然と思われる。このような信用できない情報源からくる情報に対して、昨今、懐疑的な人々が増えたのも頷ける。多くの“科学者”の発表するしばしば虚偽で、人を誤導する情報に加えて、時にはあきれ返るほどの、傲慢と自尊と相互称賛がそこに見られるようだ。

## 給料をもらう嘘つきたち？

2013年6月18日、カリフォルニア州レディングのKCNRラジオが、“climate of change”というブログをやっている Doug Craig 博士司会による、2時間もののラジオ・ショーに、4人の著名な気象“科学者”を登場させた。



最初の30分間に、一人の電話質問者が、NASAの気象科学者 Gavin Schmidt に、私たちの上空に航空機から網の目をなすほどに撒かれているのは何ですか、と訊ねた。シュミット氏は何の躊躇もなく答えた、「その航跡には何の化学物質も含まれていません、何も散布されてはいません。」どうして一人の“科学者”が、どんな状況にあらうと、確信をもってそんなことを知っていると言えるのだろうか？ とりわけ、インターネットのあらゆる所に、ジェット機が明瞭に何かを散布している無数のビデオが存在するというのに。軍用機KC-10やKC-135の散布ノズルが見え、噴射のオン・オフが間違いなく確認できるクローズアップされたビデオさえあるのだ。3つの可能性がある——シュミットは自分が認められた“専門家”とされている事象に全く無知か、目が見えないか、大嘘つきか、いずれかである。

嘘つきのナンバー2は、ブリティッシュ・コロンビア大学教授の気象“科学者”Simon Donner である。30分第2ラウンドの、私自身とドナー氏とのあわただしい2分間のやりとりの中で、彼が強調している言葉が録音されている——「ジオ・エンジニアリング情報や（ジェット散布の）ビデオはいかにも、もっともらしくみえますが、これは全く**本当のことではありません**。それは一握りの人たちが一般大衆を誑かそうとしているのです。」どうしてそんな「断定的な」ことが言えるのかと訊ねられると、彼は続けてこう言っている、「私たち

は大気のテストをしているのであって、そのような物質は検出されていません。」(そのような物質とは、ジオ・エンジニアリング特許でヘビーメタルと呼ばれている、アルミニウム、バリウム、ストロンチウム、マンガンなどのこと)

世界中の無数の実験室テストで、これらのヘビーメタルが、大量に我々みんなの頭上に降ってきていることが明瞭に証明されている事実を踏まえるならば、これもまた啞然とする宣言である。私がもう少し多くの事実を提供しようとしたとき、司会者が私を遮り、それでおしまいだった。次の数秒間にドナー氏は明らかにくくつと笑った。どうやら地球規模の化学物質散布の話題は、彼にとっては滑稽なことのようだ。

このラジオ・ショーの司会者は、このやり取り以後は、電話質問の受け付けをやめた。(これは推測ではない。電話をかけようと1時間も待機していた多くの人たちから、私は連絡を受けている。) この番組は、さらに2人の“気象学者” Robert Hinson と Malanie Fitzpatrick とのインタビューへ進んだ。彼らは二人とも、気象変化の主たる原因として炭素の放散だけを指摘した。もちろんどちらの“科学者”も、進行中の地球規模の geoengineering 計画については、ひと言も触れなかった——提供されているデータは、geoengineering こそ、この時点での気象破壊の、唯一最大の要因である可能性を示しているにもかかわらず。

## 選択的“科学”

いったいどうしてこれらの“科学者”たちは、今進行中の地球規模のエアロゾル気象操作プログラムが現実であることを確認する山ほどの科学データを、堂々と無視し、あからさまな嘘をつくことができるのだろうか？ 彼らは、彼らの体制科学で指定された情報源から出たものでない、どんな情報もほとんどすべて無視している。ジオ・エンジニアリングについて司会者は、私に対し e メールで次のように言ってきた——「我々は、科学者にとって説得力をもつどんな証拠ももちません。なぜなら学術誌に発表されない限り、それは証拠ではないからです。」(地球的権力機構によって承認された学術誌か?) そこには更にこう述べられていた——これらの科学者たちは、「科学雑誌に発表された文献によって決定される“科学”」でないどんなものも認めない、と。

なるほど、そういうことだったのだ。現実には、彼らがその存在を認めない限り、存在しないのである。私たちが来る日も来る日も、自分自身の目で、散布のありさまをはっきり見ることができるということは、問題ではないのだ。上空でジェット機が散布を行っている無数のビデオが存在することは、問題ではないのである。地球のあらゆる場所での無数の実験室テストが、我々の頭上に降り注ぐ、大量の気象操作用元素/ヘビーメタルを証明して

いることは、問題ではないのだ。気象操作の統治と技術の概要を述べる、政府発行の文書が何冊もあったとしても、すべて問題ではないのだ。“気象科学者”にとって越えられない一線は、すでに述べたように、彼ら自身の言葉で、「学術誌に発表されない限り」証拠はないということなのである。